

# ユーラシア・ホット・ライ

Eurasian Club News Letter Vol. 24

2001年 3月

(江東区役所企画課主催) 河原木・大庭・中野

## ■トピック

■3月17日のプレ・フェス開催迫る ■プレ・フェス周辺の話題 ■出演者の意気込み

## (催し物案内)

■ウズベキスタン・ツアーエネ  
■言語文化塾モンゴル編

## (クラブニュース)

■江東区での今後の計画

■モンゴル支援事業の経過報告

■寺澤僧侶の動向

## (他団体情報)

■宮崎県でのコンサート

## (トピック)

■3月17日のプレ・フェス開催迫る

「下町ユーラシア文化ルネッサンス」プレ・フェスティバル(ペーパーにて)

～獅子幻想 蕁らしいに潜むシルクロード発見～

～躍動！どこかで聴いたメロディとの出逢い～

日時：3月17日（土）午後2時～4時（開場午後1時半）

場所：江東区・深川江戸資料館小劇場（都営地下鉄大江戸線

清澄白河駅下車徒歩3分）

料金：本音便（指定席：3000円 自由席：2500円）

前売（指定席：3000円 自由席：2500円）

当日（指定席：3300円 自由席：2800円）

主催：ユーラシアクラブ

協力：江東区文化センター・江東区地域振興会

出演予定者：

「モンゴルの調べ」ブヘナサン（馬頭琴演奏、セーラシ杯銀賞）、オットホンバイラ（姫神メーンボーカル）、サルナ（モンゴル舞踊）ほか

「ウイグルの躍動」ウメル・ママット（ラップ演奏師範）、アルキン・マンシリ（ドール演奏）、サラメット・スティック（トルファン歌舞団No1舞姫）ほか

「中国音楽の源流」ソヤラ（中国古典琵琶演奏）、タラー（中国琴演奏）

「三味線の系譜～カルムイキアの音色」バドマ・アルルタノフ（ドンブラ演奏）

「ユーラシアのメロディ」直川礼緒（口琴・ホーミー演奏、日本口琴協会代表）

「江東区下町のメロディ」響美（おとみ）会、お囃子、獅子舞、山本松穂（津軽三味線、民謡）

国家、民族、宗教を超えて / 理解、親睦、協力の促進を /

民族の共生、自然との共生を構築する /

## ■出演者の意気込み

～ウメル・ママットさん（ウイグル・ラップ）～

「初めての試みなので、どういう感じになるのか僕にも分からぬが面白そう。まだ三味線の山本先生と一回音合わせをしただけだが、これからいろいろ試してみたい。うまくやりたいので頑張ります。

～サラメト・スティックさん（ウイグル・舞踊）～

「日本とウイグルの間の文化の架け橋になりたい。3ヵ月しか日本に滞在しないからちょうどいい機会です。」

～アヘナサンさん（モンゴル・馬頭琴）～

「日本にモンゴルの文化と音楽を紹介し広める機会にしたい。」

～山本松穂さん（江東区・津軽三味線）～

「ユーラシアの樂器は、どんな形なのか音色なのかこれまでまったく知らなかつたので、私自身大変興味をもっており、とても良い企画だと思います。彼らとの共演はどういうものになるでしょう。大勢の人達に聞いてもらいたい。」

（催し物案内）

## ■ウズベキスタン・ツアー案内

旅行名称：ウズベキスタン歴史体験ツアー

企画：特定非営利活動法人ユーラシアンクラブ

主催：株式会社トラベル世界

目的：ゴールデンウイークを利用して、ウズベキスタン・テルメズで玄奘三蔵ゆかりの遺跡発掘調査を実施している加藤九祚（国立民族学博物館名誉教授）を訪ね、今年80歳となる先生の長寿と健康をお祝いすること、また先生の仏教遺跡の調査を視察しお手伝いすること、クシャン時代を含めた周辺の遺跡を訪ね、またサマルカンドやブハラの遺跡群を見学。来年招聘を計画しているブハラの民族芸能団「サシマコム」の公演鑑賞、ブハラの陶芸家を訪問する予定です。

期間：4月28日～5月5日までの8日間

利用航空会社はウズベキスタン航空（往路は日本～ウズベキスタン間定期便の第1便に搭乗）

## 日程 行程

### 交通手段宿泊地

第1日、関西国際空港（12:00）～タシケント（16:45）航空機 ホテル

第2日 タシケント→テルメズ 航空機 ホテル

第3日 テルメズ バス ホテル

第4日 テルメズ→サマルカンド バス ホテル

第5日 サマルカンド→ブハラ バス ホテル

第6日 ブハラ バス ホテル

第7日 ブハラ→タシケント（22:30）～関西国際空港（10:00）航空機 機内泊

第8日 ～関西国際空港（9:55）

旅行代金：ビザ手数料、航空運賃、移動交通費、宿泊費用、食事代、発掘

参加費、コンサート鑑賞費、陶芸体験

費用等 28万円

（関西国際空港までの国内移動費は含まれません）

## ■豪語文化塾モンゴル編参加者募集

「モンゴル編－歌から学ぶモンゴル語」

講師：ソヤラさん（内モンゴル出身の琵琶演奏家、拓殖大学留学生）

内容：初心者が対象です。初めての外国語は取つきにくいものですがこの講座については心配無用です。モンゴルの代表的な歌を毎回1曲ずつ紹介し、その歌に関連する事柄について説明し単語を覚えていきます。モンゴルの歌を最も一曲は覚えましょう。また、毎回会話練習の時間を作ります。会話文はカタカナで表記します。

募集人員：5～10人

受講料：1コース1万円（入金確認後受講決定）

振込先：東京三菱銀行虎ノ門支店普通1053500ユーラシアンクラブオオノリヨウ

開講時期：4月を予定。曜日・時間帯は参加希望者と相談の上決定します。

お問い合わせ・お申し込みはクラブ事務局まで。

第1回：今日の歌「お酒で祝う歌」；出会いやおめでたい席での作法の話と関連語

会話：簡単なあいさつ

第2回：今日の歌「やせの白鳥」；風土や動植物の話と関連語

会話：数字と暦を使う言い方

第3回：今日の歌「オボーでデート」；若者や恋愛の話と関連語

会話：簡単な質問文会話

第4回：今日の歌「母の歌」；家族や家庭生活の話と関連語

会話：親族呼称と身体の部分の名称

第5回：今日の歌「私はモンゴル人」；遊牧民の風習の話と関連語

会話：地名と人名についての説明

特別懇談会：日時は相談の上で決定

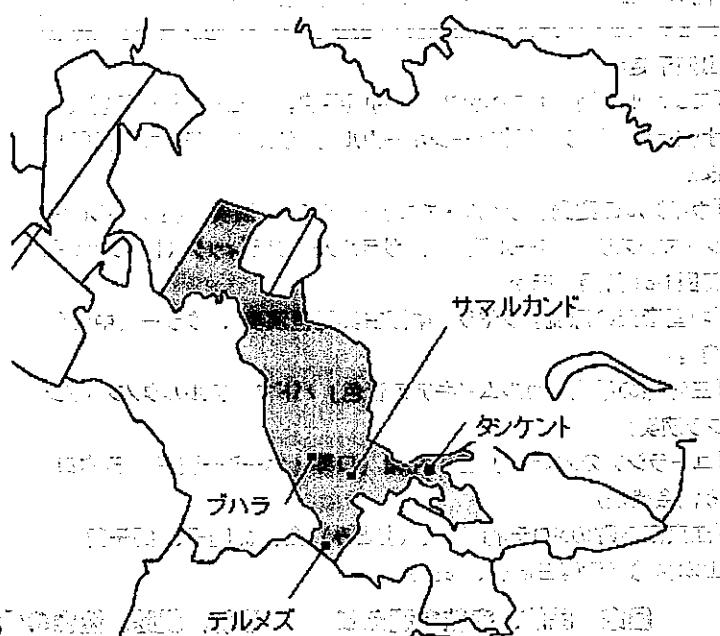
モンゴルティー（ステーキ）と肉餃子の料理・試食会。

先日、クラブ代表大野は長年「子供発展センター」との交流を続けてきた「多文化共生財団」の川岡さんと話し合いをもち、「当面は新しい学校建設が進むことになったため、その建設・運営に追われることになるだろう。今後の支援協力プログラムについては向こうの状況を見て対応することとする」という合意を得ました。また、クラブにおける実行委員会に立ち上げについても現在のところは様子見の段階であるということで保留中です。

## ウズベキスタン



加藤九祚先生



3月17日のプレ・フェス後の予定も着々と決まりつつあります。亀戸の集合ビル“サンストリート”における町づくり支援のためのユーラシアのアーティストによるコンサートの依頼が正式にクラブ事務局に先日ありました。さらに、ユーラシアのアーティストに対する出演依頼は目下のところ以下のとおりであり、これらの催しについて出演者は未定ですがクラブとして協力する予定です。

月18日 東大島文化センター フェスティバルでのロビーコンサート  
月18日 ティアラ江東 国際交流祭でのコンサート  
月8日 亀戸桜パレードおよび社寺でのコンサート オーク田園祭のホールにて、式典に際して音楽を提供する予定。  
催しにつき3~4人のアーティストを派遣する予定。

**I寺澤潤世僧侶の動向**  
寺澤潤世僧侶は、その活動によって多くの人々に影響を与えてきました。特にチエニンの平和を祈る活動は、多くの人々に感動を与えました。今後、ジュネーブにおける国連人権委員会に際して断食をされるとのこと。詳細は下記。

スリランカの僧侶による平和の祈り、ヒマラヤへの旅の結果  
チエニンの平和のための断食 ジュネーブ 2001

国連人権委員会の第57回討議の際に、異なる諸宗教グループが、国連宮殿の前にある「足の壊れた椅子」(地震震災キャンペーンのためのモニュメントで三本足の椅子)もしくは国連宮殿近くの丘の上にある平和の鐘(梵鐘)の前で、4月1日から断食を行い、毎日朝9時から5時まで祈りを捧げる。

1. チエニン紛争の政治解決のための対話の即時開始  
2. 国際多宗教平和ミッションのチエニンへの派遣  
3. チエニン国内難民への即時人道援助

**声明**  
ソヴィエトロシア後の過去10年に2回にわたり、チエニンは殺戮の場と化し、暴力と報復の繰り返される無法地帯となつた。今日の悲劇は、民族として絶滅の瀕死にあるチエニンの人々だけでなく、生まれたばかりのロシアの民主主義、及び冷戦後の新しい世界への平和的移行という未来にとどても悲劇となろうとしている。

新しいミレニアム(千年紀)がまさに始まるという時、文明の衝突の兆を示すよう

にチエニンは戦火の炎に覆われ、人々の血が流れつけている。旧ソ連の突然の崩壊後の混迷の中で、新独立国家は、改革と国家建設という非常に難しい課題に取り組んでいる。しかしヨーロッパ諸国は、この裏面に複雑に小さな明確な政策やビジョン、洞察をもてないまま対応している。チエニン戦争は、冷戦後の移行期の希望の無い10年の最も破滅的特徴を示している。国際社会は、有效的機能があるにもかかわらず、結果として大きな失敗を重ね、世界の信頼を失いつづけている。意味のある平和的道筋を拓くために、世界のどこからも、今のところいかなる政治的支援も与えられていない。

もし「アブシュビツツ」や「広島」という名前が20世紀の戦争犯罪を思い出させるとするならば、今日のグロスヌイやチエニンは、私たち全体の罪と無関心に対する、新世纪の恥すべき記念碑となるだろう。

今回の断食を通して私たちは、小さいがしかし具体的な前進の契機を与えることを祈念し、戦争当事者の姿勢に変化をもたらし、世界が行き詰まり状態から脱出する方途を見出すことに貢献することを期待する。この断食は、非力なことを認めながらも、誰にも内在する精神の力を信じる宗教者の行動である。私たちはこの力が変化をもたらすことを祈る。私たちはチエニンの平和への道筋を拓くために誰もが行動することを呼びかける。

**呼びかけ人：寺沢 潤世、仏教徒**

**あなたのできる行動内容**

## 1. 断食への参加

2. 自国政府が3つの目標を書きかけるように手紙を書く
  3. 直接もしくは最寄のロシア大使館を通じて、プーチン大統領が3つの目標を受け入れるよう手紙を書く
  4. 国連及びその機関がこれらの目標を受け入れることを勧める
  5. 国会議員が議会でこの問題を討議するよう求め、あなたの所属する団体がこの目標の実現のために働きかけるよう求める
  6. この問題についてマスメディアで意見を発表する
  7. チエニンの詳しい状況について、下記のホームページから情報を収集する
- (例えば)
- human rights watch [www.hrw.org](http://www.hrw.org)
  - amnesty international [www.amnesty.org](http://www.amnesty.org)
  - international peace bureau(see conflicts section) [www.ipb.org](http://www.ipb.org)
  - for timelines of key events in Chechnya with links; <http://www.infoplease.com/spot/chechnyatime1.html>

## (他団体情報)

### ■宮崎県でのコンサート

来る4月20日から23日にかけて、宮崎県の門川町総合文化会館など県内2カ所で、ユーラシア音楽と日本民謡の接点を探るコンサートが催されます。ユーラシアの音楽家としては、クラブ協力者であるオットボンバイラ(モンゴル・歌手)、ブヘナソン(モンゴル・馬頭琴奏者)、ウメル・ママット(ウイグル・ラワーピューター)の各氏が出演を予定しています。

(クラブ短信) お問い合わせ、又はこの件に関するご相談は、お電話にてお問い合わせ下さい。お問い合わせ用紙は、お問い合わせ用紙をクリックして下さい。お問い合わせ用紙は、お問い合わせ用紙をクリックして下さい。

**■キルギスのアイーダさんから札状**  
今年はじめの「キルギス文化フォーラム」でご協力いただいたとき、1月末に帰国されたアイーダさんからクラブにお札状が届きました。

- 大野さんをはじめクラブの皆さま、こんにちは。
- お元気ですか？
- 「キルギス文化フォーラム」を企画していただいたことに心から感謝申し上げたいと思います。あの催しは本当に意義深いものであり、成功を収めました。
- 茄親からも、どうぞよろしくとのことです。
- アイーダより

### ■サハのナターシャさんが来日の予定

昨年秋に帰国したサハのジーサさんからお便りが届きました。彼女は大学の卒業論文のために勉強をしながら、英語の教師や日本語の翻訳の仕事も忙しい毎日を送っているそうです。さらに、うれしいニュースとして、以前にも留学してクラブでもおなじみのナターシャさんが、今年4月より再び千葉大学の研究生として来日することが決まったと知らせてくれました。

### ■カナダのイジンフからメール

今年1月にさらなる留学先であるカナダ・バンクーバーに向かった内モンゴル出身のイジンフさんから元気でやっているとのメールが届きました。



## ■会員登録がありました

先月、ボランティア会員2名、サポート会員1名の新たな登録がありました。ここのうち、ボランティア会員となられたお二人から以下のような自己紹介文をいただきました。これからのお二人のご活躍を期待いたします。

～黒羽正夫さん～  
はじめまして。今度ボランティア会員に登録していただきました黒羽正夫と申します。よろしくお願ひします。  
ボランティア活動の経験は全くないので、皆様から学びつつ、できることから参加させていただくつもりです。わたしは茨城県水戸市に住んでおりま  
すので、特に近くの会員の方には直接お目にかかるいろいろご指導をいただければと思います。  
ユーラシアンクラブのホームページは趣味の民族舞踊、民族音楽を検索して  
いるときに出会いました。内容的にとても厚みがあり、かつウイヴィッドな  
感じを受けたので、少しでも活動に参加したく登録させていただきました。  
わたしとユーラシアとののかかわりは5年前の2度のロシア短期滞在以  
外とりてないので、現実のユーラシアを把握していないと思います。ただ、多くの方々と同様、ユーラシアは自分の心の原風景ではあります。で  
すので、この機会をとても嬉しく思っています。  
どうぞよろしくお願ひします。

## ～原田郁子さん～

思い起せば、私が初めてユーラシアの歴史・文化に興味を持ったのは、高校生の頃。世界史の授業で、軽く扱われがちな中央アジアやイスラム圏の興亡史や文化、ごく簡単な記述しかない國や名前しか出てこない國に  
思いを馳せたのが最初でした。当時は可能な範囲で色々調べたり、勉強したりもしたのですが・・・。

以来、「遊牧民族」「騎馬民族」「東西文化の交流点・中央アジア」に漠然とした憧れを持ち続けています。特に中国奥地、モンゴル、中央アジアの国々には一度行ってみたいと思っていますが、様々な事情によりいまだ実現することはありません。一度いいから広い草原に、あるいは沙漠にごろんと横になって星空を眺めてみたい。。。この憧れが叶うのはいつの日になることやら。

ユーラシアンクラブを紹介して頂いて、ホームページを探してざっと一読するや、すぐにボランティアの登録をしてしまいました。アジア北方の国々には、まだ漠然とした憧れだけを持ち続けていただけなので、歴史や文化に詳しいとか、言葉がわかるとか、そういうことは全くありません。ボランティアとしては足手まといになるだけかも知れませんが、よろしくお願ひします。

最後に個人的な自己紹介（をかねた自己PR）を。興味のあることには何でも手を出す（ために首がまわらなくなりつつある）多趣味人間。好奇心旺盛、超外交的。現在の趣味は主にチャット、天文、クラシックバレエ、姫神。特技（？）は良く通る大きな声と迅速な行動力。

## ■サポート会員・ボランティア会員を募集中

NPO法人化に伴い、クラブの会員規定も変更しています。年会費1万2千円によって経済的に支えていただサポート会員と、スタッフとしての活動でクラブを盛り立てていただくボランティア会員を随時募集中です。お説明合わせの上ぜひご入会ください。なお、このニュースレターはサポート会員の方のみに発送させていただいております。〈登録用紙はHPに掲載〉

## ○編集後記

だんだん春めいてきました。春のゴールデンウィークのウズベク遺跡発掘体験ツアーは楽しみな企画です。しかし一方アフガニスタンではタリバーンにより石仏が破壊されているとの情報もあり心配です。多民族多文化が共存していく社会を目指して、クラブでもシリーズもののフォーラムを行っていますが、そのような社会の実現は一つのことになるでしょうか。なお、今回は紙面の都合で連載はお休みです。次号の人物紹介はウイグルのラップ演奏家ウメル・ママトさんです。お楽しみに。(い)

## ●デルスウ・ウザーラの森へ 羽田節子

2000年の大晦日、私たちは100年前にデルスウ・ウザーラが歩いた森へ向かった。零下20℃のなかで風をさるのだからと、ありとあらゆるものを見込み、3枚重ねた靴下のうえに村人が用意してくれた着いウールの布をまき、さらに分厚いフェルトの靴をはかせられ、スノーモービルの引くそりに乗った。そりといつても、それは舟型のただの木箱。でこぼこの山道で、このとんでもない乗り物は生き物のごとく跳ねる。そりのへりにつかまって両腕で必死に体を支えていても、跳ねるたびに頭にガンガンと響く。脳細胞がどれだけ壊れたことか。顔はえりまきでぐるぐる巻きにし、さらにハンター用の分厚いオーバーをかぶるが、それでも猛烈な排気ガスが容赦なく襲う。とうとう我慢の限界。歩いて登ることにした。

すると、世界は一変した。スノーモービルの排気音がかなたに消えると、そこはさわやかな森の香りにつつまれた白銀の世界。タイガ最南端のこの森は針葉樹のあいだに落葉樹のまざる、思いのほか明るい森だ。足元からエゾライチョウが飛び立つ。日本の高山のライチョウとちがつて冬も白くならない。ときおり小鳥たちの群が澄んだ声を聞かせてくれる。コガラ、ヒガラ、ゴジュウカラは日本産のものと同種。エナガは北海道の亞種シマエナガと同じだ。私たちが分け入ったのは原生林のほんの入り口なのに、そこここで動物たちの足跡に出会う。アカシカが深い雪を踏みしめて森の奥へ向かっている。ノウサギの足跡は軽やかで、まるでダンスをしているかのようだ。ジャコウジカが林縁を出たり入ったりしながら人間の道を利用している。テン、イタチ、シカ……。なんと豊かな森なのだろう。この森の奥にはまだ、イバシモもクマもヒョウもトラも住んでいる。

だが悲しいことに、私たちは、あの手つかずの森を見た最後の日本人になってしまった。今その森にはチェーンソーがうなり、遠く離れた私たちの耳に大木たちの悲鳴が聞こえる。その木材の行く先は……おそらく日本。

わずか1800人といわれる狩猟民ウデゲ族と400頭足らずになってしまったウスリートラのために、今私たちにはなにができるだろうか。

羽田節子：生物・自然関連の執筆・翻訳、ユーラシアンクラブ・サポート会員  
東洋文庫版「デルスウ・ウザーラ」出版のさい、動植物名のチェックを担当、以来、極東やウデゲ族に关心をもつ。  
10年前モンゴルのアルタイ山脈に3週間、動物観察の旅をしたのがユーラシア再認識のきっかけ。ロシア滞在は今回初めて。  
最新の訳書「リンデン著「動物たちの不思議な事件簿」紀伊国屋書店  
(3月4日付朝日新聞に書評掲載)



発行：NPO 法人ユーラシアンクラブ

発行人：大野達、編集人：井出晃憲

2001年3月1日発行

住所：〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-13-2 第1広田ビル

電話 / ファックス：03-5371-5548

E-mail : PAF02266@nifty.com

Homepages : <http://homepagel.nifty.com/BURASIANCLUB/>

印刷：テレサ株式会社 出版部

住所：〒142-0063 品川区荏原7-20-11

電話：3786-9725 / ファックス：5746-2441

E-mail : info@teresa.co.jp

Homepages : <http://www.teresa.co.jp> <http://www.teresa-net.com>